



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 牛久市立向台小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	第3学年 102名 第5学年 94名 PTA本部役員 2名 学校運営協議会 3名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (国語、総合的な学習の時間) ② 行事名 (東京パラリンピック日本代表選手講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピック教育を実施することにより、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 ○障害者スポーツについて知るとともに、日本代表選手の生き方について考えることで、自らの生き方や多様性について考える契機とする。
5 取組内容	(1) 第3学年国語「パラリンピックについて調べよう～パラリンピックが目指すもの～」に係る講演会・体験会 ① 実施日 令和3年11月30日(火) ② 講師 東京パラリンピック ブラインドサッカー日本代表 佐々木ロベルト泉選手(牛久市在住) ③ 内容 ・パラアスリートの日常生活上の困難さを知り、前向きな努力をすることの大切さについて学ぶ。 ・東京パラリンピックの動画やデモンストレーションの視聴、実際にブラインドサッカー体験を行うことで、パラスポーツに親しむ。 ④ 事前指導 国語での各自のテーマに基づいた調べ学習、発表会等 ⑤ 事後指導 タブレットPCを活用し、Wordによる感想文作成
	 



(2) 第5学年総合的な学習の時間「キャリア教育」に係る講演会・体験会

① 実施日 令和3年12月2日(木)

② 講師 東京パラリンピック ゴールボール日本代表

山口凌河選手

③ 内容

- ・「これまでの経験から、みんなに伝えたいこと」をテーマに、山口選手自身の生い立ちや経験を含めた講演や質疑応答を行う。
- ・ゴールボールの動画視聴やデモンストレーション、体験会を行うことで、パラスポーツに親しむ。

④ 事前指導

東京パラリンピックのゴールボールの動画視聴等

⑤ 事後指導

タブレットPCを活用し、Wordによる感想文作成、関連の題材を活用した道徳の実践



6 主な成果

(1) 第3学年国語「パラリンピックについて調べよう～パラリンピックが目指すもの～」に係る講演会・体験会から

○オリンピックやパラリンピックに対してだけでなく、佐々木選手は本市在住ということもあり、身近に素晴らしいスポーツ選手がいるということも併せて関心・意欲が高まり、スポーツのよさやすばらしさに気づくことができた。

○国語科の「まとめ」として実施したことにより、障害者スポーツについての理解が深まるとともに、選手の生き方や考えを知ることができた。

【児童の振り返りから】

- ・分かったことの1つ目は、ブラインドサッカーです。今まで知らなかったのですが、視覚障害者ができるサッカーということを知りました。2つ目は、音を頼りに生活しているということです。視覚障害者は、目の代わりに耳を使っているということがすごいいと思いました。また、ロベルト選手が、あきらめないでブラインドサッカーをしていることが、すごいいと思いました。

・ロベルト選手の負けたくない気持ちがとてもよく伝わりました。そこで、私はあきらめないという言葉にとっても感動しました。なぜかという、私は何をやってもあきらめてしまうからです。私もロベルト選手を見習ってあきらめないような人間になりたいです。

	<p>(2) 第5学年総合的な学習の時間「キャリア教育」に係る講演会・体験会から</p> <p>○山口選手自身の生い立ちや経験等を聞くことにより、日常生活上の困難さを知り、前向きな努力をすることの大切さについて学ぶことができた。</p> <p>○ゴールボールの動画視聴やデモンストレーション、体験会を行うことで、パラスポーツを体感し、親しむと同時に、多様性を学び、考えることができた。</p> <p>【児童の振り返りから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えないとどれだけ大変かよく分かりました。今回の体験会でうれしかったことは、みんなと目を閉じて円を作れたことです。また、ゴールボールを、実際に体験してみたときに得点を取れたことです。次に、すごかったことは、目が見えないのにどこにボールがあるか分かっていたことです。私もゴールボールをやってみたくなりました。 ・僕が学んだことはいくつもあります。まず、目が見えないことの大変さです。目が見えない人は、普段白杖を使って歩いていて、買い物をしているときに人にぶつかったり、車のサイドミラーに当たったりすると話していました。とても大変だと思いました。次はゴールボールの魅力です。ゴールボールは、健常者でも、障害者でも公平に楽しくやることができると分かりました。凌河選手が言っていた、白杖をもっている人が困っていたら話しかけてみるということもやってみたいなと思いました。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に国語の学習や動画視聴により、ブラインドサッカーやゴールボールの両選手への関心が高まるようにした。 ・ブラインドサッカーやゴールボールの体験を通して、障害者スポーツについての理解が深まり、その楽しさや難しさを実感できるようにした。 ・体験に加え、日本代表のユニフォームや獲得してきたメダル、ボール等の展示のご協力いただき、実際に触れる機会を設け、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めるようにした。特に佐々木選手は本市在住で、身近に素晴らしいスポーツ選手がいることが分かった。 ・国語や総合的な学習の時間等、他教科との連携を図る等、カリキュラム・マネジメントを実践できた。学習の一環として、Wordによる感想文作成を行い、読み上げ機能を使って両選手に聞いていただけできるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、本来であればより多くの学年に体験させる機会を設けたかったが、難しい面があった。また、選手や児童同士の距離や消毒、進行の仕方や内容等、配慮しなければならなかった。 ・来年度以降の教育課程への位置付けを明確にし、この体験が一過性のものとならないよう、国語と総合的な学習の時間だけでなく、体育や道徳、特別活動等も含めたカリキュラム・マネジメントを実践する必要がある。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の教育課程へ位置付け、児童が様々な体験をすることを通して、多様性を尊重し、他者と協働することのできる素養を身に付けさせていく。 ・豊かなスポーツライフを実現するために、今回経験したブラインドサッカーやゴールボール、ボッチャといった種目を体育等に取り入れていく。